

## 東大和市立第一小学校（1年目）

【校長】 石田 玲奈  
【児童数】 481名  
【学級数】 17学級



次の取組へ

### 【課題・改善】

- ・「運動やスポーツをすることが好きか」という項目で、「好き」「やや好き」と答える割合は全校の約85%で、6月に比べると12月では結果が微減している。
- ⇒教員の指導力向上を図るために実技研修や体育科担当による公開授業を計画的に実施していく。
- ⇒年間を通して体育的活動の時間を設け、運動遊びの時間を確保する。

### 【実態・課題】

- ・外遊びが好きで、体育の授業でもやる気が感じられる。その反面遊びの創意工夫が少なく、遊びの種類が固定されている。
- ⇒遊びの種類を増やすために、外遊びグッズを増やしたり、竹馬コーナーを設置したりする。
- ・体育科における1人1台端末の活用が十分にできていない。
- ⇒体育科担当を中心に器械運動領域で活用し、校内に還元していく。

### 目標

- ・体育の授業が好きで、運動やスポーツをする子供（80%以上）
- ・運動やスポーツをすることが好きな生徒（95%以上）

### 【成果】

- ① 外遊びグッズを充実させたり竹馬コーナーを設置したりしたことで、外遊びをする児童が増えた。（来年度は、アンケート項目に加える必要がある。）
- ② 「運動ができるようになったきっかけ」の項目では、全学年が先生・友達の真似をする・友達に教わるという3つの項目で6月より約20%近く増加した。
- ③ 「体育の授業は楽しいと思うか。」という項目では、全学年が90%近くが好き・やや好きと回答している。

### 【取組】

- 授業（体育科）での取組
  - ・「課題発見・解決」するために、1人1台端末を活用した。
- 運動機会の創出の取組
  - ・外遊びグッズを増やしたり、竹馬コーナーを設置したり、ゲーム・ボール運動領域でボールをペアで使用できるよう教具を増やしたりした。
- 食育の取組
  - ・市の栄養士を講師として、食育に関する授業を行った。（3月には中田崇志さん（パラリンピックマラソン伴走者）による走り方教室の実施予定）

### 【取組（詳細）】

#### ○ 体育科における1人1台端末の活用

体育の授業では、器械運動領域で1人1台端末を活用し、自分の動きを見直し、課題を明確にしたり、友達の動きを見てアドバイスをしたりする姿が多く見られるようになった。今後は、より円滑に活用するために他の運動領域でも同じアプリケーションを使い、活用方法を校内で研究していく。



友達の試技を1人1台端末で撮影している様子です。

#### ○ 運動機会の創出の取組



休み時間に外に出て竹馬を使って遊ぶ児童の様子。



大縄集会に向けて、休み時間に練習をしている児童の様子。



フライングディスク教室。（放課後子ども教室）

校内環境の整備として、体育倉庫の整理整頓から始めた。また、ゲーム・ボール運動領域での運動量を確保するため、教具の数を増やした。そして、休み時間の外遊びを促すため、外遊びグッズの充実を図った。（ドッジビー・ドッジボール）さらに、校内の小屋を清掃し、竹馬コーナーを設置した。

#### ○ 外部人材を活用した食育のレクチャー

第五学年を対象として、東大和市給食センターの栄養士による出前授業を行った。今回は、五大栄養素について献立に入っている食材を基に考え、バランスよく食べることの重要性について改めて学習する機会となった。来年度は、対象学年を広げたり、委員会活動と関連させたりして食育を進めていく。



五大栄養素について詳しく学習しています。

## 東大和市立第一小学校(2年目)

【校長】 石田 玲奈  
 【児童数】 465名  
 【学級数】 16学級



次の取組へ

### 【課題・改善】

- 研究授業や体育的活動等の研究を通して、児童の「運動が楽しい」、「運動をしたい」という意欲は、高まったものの、自分の考えを進んで他者に伝えようとする意欲はあまり高まりが見られなかった  
 ⇒今後も、体育科を中心に、他教科を通して継続して、他者への意見やアドバイスの発信について取り組んでいく。
- ゲームを伴った単元の学習では、勝敗にこだわってしまい、相手を認められない児童の様子が見られる。  
 ⇒児童に技能の向上による楽しさを感じさせるだけでなく、児童がその運動の特性を楽しんだり、皆と一緒に活動することで楽しく運動ができたりすることを実感させられるような手だてを今後も考えていく。また、運動面や健康面だけでなく、日々の学校生活の中でも豊かな心を養っていく研究を進めていく。
- ラーニングマウンテンや体育的活動等の全校で取り組んできた様々な活動を、研究のための1年間の取組とならないよう、今後も継続していく必要がある。また、継続していくことによって、児童の更なる成長が期待できる。

具体的な数値では評価しておりません。今後の課題として捉えさせていただきます。

### 【成果】

- 児童の実態を捉える際に、具体的なアンケート調査を行うことで、より児童の実態に合った単元指導計画や本時の計画を立てることができた。
- 昨年度の校内研究から取り組んでいるラーニングマウンテンを今年度の研究でも継続して取り組むことで、児童が目指すべき単元のゴールが明確となり、見通しをもった学習を進めることができた。
- 体育科の授業改善、健康教育、体育的活動の3つの大きな柱を一つ一つ区別して研究を進めるのではなく、それぞれを関連付けながら研究を進めることで、楽しく運動するためには、体の健康だけでなく、心や周囲の環境等の様々な事柄が関係していることに気付かせることができた。

### 【実態・課題】

- 全校児童の90%が『体を動かすことが好き・やや好き』『体育の授業が好き・やや好き』と回答している。一方で、10%程度の児童が、『体を動かすことや体育の授業がやや嫌い・嫌い』と回答している。
- 全校児童の25%程度が、『自分の考えを友達に伝えることが苦手』と回答している。  
 ⇒運動の楽しさや喜びを味わえ、自分の考えを進んで伝えられることができるような授業改善を図る。
- 休み時間の様子を見ると、70%程度の児童が外に出て遊んでいるが、遊びの種類は固定化し、限られている。  
 ⇒様々な運動遊びに触れ、運動の楽しさや喜びを味わわせられるような大和タイムを実施する。
- 70%以上の児童が『好き嫌いをせずにバランスよく食べている。』と回答している。しかし、給食の様子を見ると、偏食や食べ残しが多い。  
 ⇒食育・健康教育の推進を図る。

スポーツをする児童(80%以上)  
 好きな児童(95%以上)

### 【取組】

#### ○授業研究部会

##### 体育の授業改善

- ルールや場、教具を工夫し、運動の特性を味わいながら運動できるようにした。
- 「学びの山」を活用し、単元のゴールを明確にすることで、見通しをもって学習できるようにした。
- ペア、グループ活動を通して、友達の動きに関心をもったり、協働的に学んだりする機会をつくった。

#### ●体育的活動部会

##### 大和タイムの実施

- 様々な運動遊びにチャレンジし、体を動かす機会を増やした。
- 運動を通じた友達との関わりの中で、日常的に運動に親しもうとする意欲を高めた。

#### ◆食育、健康部会

##### 食育・健康教育の推進

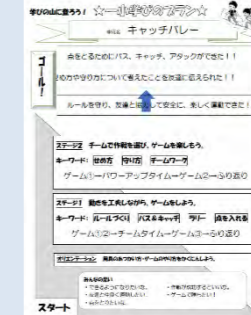
- 養護教諭による保健指導、栄養士による出前授業を通して、生活習慣や食事についての知識を深めた。
- 委員会活動で、食育、健康に関する内容を全校に発信した。

## 【取組(詳細)】

### ○授業研究部会

『どの子ども体を動かす楽しさを味わうための体育・健康教育の充実～かわりを通して～』という研究主題を設定し、次の3点を手だてに研究を進めた。

- ルールや場、教具を工夫し、運動の特性を味わいながら運動できるようにする。
- 「学びの山」を活用し、単元のゴールを明確にすることで、見通しをもって学習できるようにする。
- ペア、グループ活動を通して、友達の動きに関心をもったり、協働的に学んだりする機会をつくる。



運動の特性を味わいながら運動できるようにするための教具の工夫

単元のゴールを明確にし、見通しをもって学習できるように作成した「学びの山」

友達と、攻め方や守り方について話し合っている様子

### ●体育的活動部会

いろいろな運動の楽しさを味わい、運動の日常化を図るための取組として、月に一回程度、約30分間の『大和タイム』を設定し、12種類の運動遊びの場を作った。縦割り班をさらに4つに分け(6~7人程度)そのグループで遊びたい場所に行き、鬼ごっこやクライミングなどをして楽しむ活動を行っている。



6年生を中心に行動し、それぞれの遊びの場を体験している様子

### ◆食育・健康部会

健康に過ごすための生活習慣や食事についての知識を深め、日常生活に生かそうとする子供を育てるために、外部人材や養護教諭、栄養士と連携した授業を各学年で行う。また、委員会活動で食育や健康に関する情報を全校児童に発信したり、校舎内に掲示したりする。



時期	対象	内容	食育の観点
6月	4年	かんで食べることの大切さ	②心身の健康(健)
7月	3年	地場野菜	④感謝の心
9月	5年	魚の旬	②心身の健康(栄)
③選択			
10月	6年	目によい栄養素	②心身の健康(健・栄)
12月	6年	全国給食週間について	⑥食文化

栄養士による出前授業の予定表

食育の観点  
 ①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力  
 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化